

# Photo Space

記録・創造・交流のための

ロゴデザイン：富樫茂美

AUTUM 2022・10.25 NO.10 「JRP60年・現研50年プレ企画写真展紹介特別号」

現代写真研究所

〒160-0004

東京都新宿区四谷 3-12 荻ノビル 5.6F

03-3359-7611 (TEL) 03-3355-1462 (FAX)

<http://www.genken.ac>

[jimukyoku@genken.ac](mailto:jimukyoku@genken.ac)

責任編集 金瀬 胖

禁無断掲載 許可なく作品の使用はしないでください。



埠頭 2020年5月船橋 金瀬胖

## 写真展「TRY」 コロナ期の写真

現研50年、JRP60年周年のプレ企画として「TRY一写真のこころみ」を genken gallery で開催しています。気候異変と大災害、コロナという病、ウクライナの未曾有の出来事で写真何ができるか、何を撮るかを考えざるを得ません。これまでの尺度では捉えきれない世界の出現で、直ぐに結論が出るものではないです。そこでタイトルを TRY としました。沢山の出品ありがとうございます。TRY は世界の大きな危機のたびに歌われてきたビートルズの「IMAGINE」から。4番の歌詞はベートーベンの第九とそっくりです。「想像して 何も所有しないって 君にも出来るんじゃないかな 欲張ったり飢えたりする必要もない 人類はみんな兄弟 想像して すべての人々が 世界を分かち合っていると」

シモーヌ・ヴェイユは「重力と恩寵」に書きました。「全地球を汚しまくり、カラカラになるまで吸い取ったこんな私たちのを、よみがえらせてくれるものは、どこから来るのか」と。「時間は流れ行くことによって全てをすり減らし砕き去る。だから、現

在よりも過去の方により多くの永遠性がある。過去は実在的であり、また私たちよりもすぐれた何かを、私たちに与え、私たちを高みのほうへ引きあげてくれる。未来はこういうことをめったにしてくれない」「過去は絶対に私たちの手の届かぬところにある。わたしたちはただその方向へ自分に向けて、そこから発してくる光が自分にまで届くようにしているほかはない」「過去は永遠で実在的のすぐれた像なので。それゆえにこそ、あるがままの過去、記憶の中には、喜びと美しさがあるのではないか」。そして「私たちが現に生きているこの文明のただ中で、精神と世界の根源的なつながりを再び発見すること」と結んでいます。これはナチの支配下で書かれたものですが、今読めば、写真を撮ること、見ることの大事さを言っているように思います。

さて、ここにある「埠頭」は船橋港の先端部分にある産業用の埠頭です。コロナの最初の「緊急事態宣言」の中で地元を歩き回り写真を撮っていました。

記・金瀬胖 / 教務主任



あの日が今年もー豊川海軍工廠犠牲者慰霊祭

浅井鐵男



街の変貌  
木崎昭



学びのまなざし  
豊島洋



共存  
野呂彰



集合住宅  
中澤ふみ子



無人駅・津軽鉄道  
中澤ふみ子



ハチ公前広場  
飯塚明夫



母国に思いを馳せて # save Myanmar

五味明憲



船の墓場  
宮本壽男



彼女の想い 桜井邦彦

地元の街角で2015年9月から毎週土曜日夕方に「戦争法」反対のスタンディング・アピールが続いている。彼女はスタンディングに参加する想いを次のように述べている。

「スタンディングに誘われた時、何の躊躇もなく参加したい、私には立つ義務?があるとも思っただけです。遠い昔の話ですが、父は私がまだ母の胎内にいたときに出征したまま帰ってきませんでした。その後届いた小さな白木の箱には、遺骨ではなく握りこぶし大の石、今もその石は、父の身代わりにお墓に眠っています。小さな子供四人を抱えて大変な苦勞をした母を思うと、戦争の残酷さと理不尽を思わざるをえません。そんな思いが、仲間と共に「九条を守れ」の幟を持って立つエネルギーになっています。今、孫たちを見ていて思うのですが、若い人達は戦争の悲惨さを知りません。そんな人たちに、「九条を守る」って何?と思って貰えたら、立つ意味があるのかなと思っています。」

参加しているそれぞれの人にそれぞれの想いがあるはずだ。



お別れの日  
一雛流し—  
長尾伸明



慰霊の旅 電子力災害記念館 二十歳の凜さん  
宮原咸太郎



震災遺構 石巻市立大川小学校  
本郷浩



KAGE  
路上の空気と時と人の影

渡辺壮



SHALL WE DANCE?  
鈴木知之



Angel Site  
宮本遼



軍港

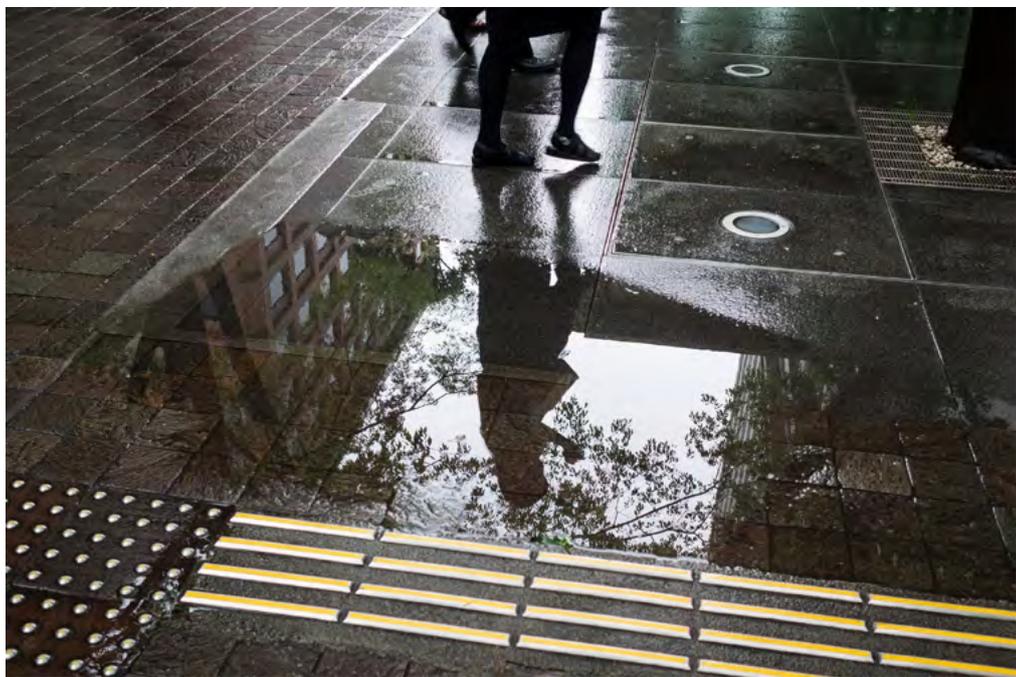
とみたやすよ



調整池  
佐藤泰治



禁足の街（新宿区）  
石田雅章



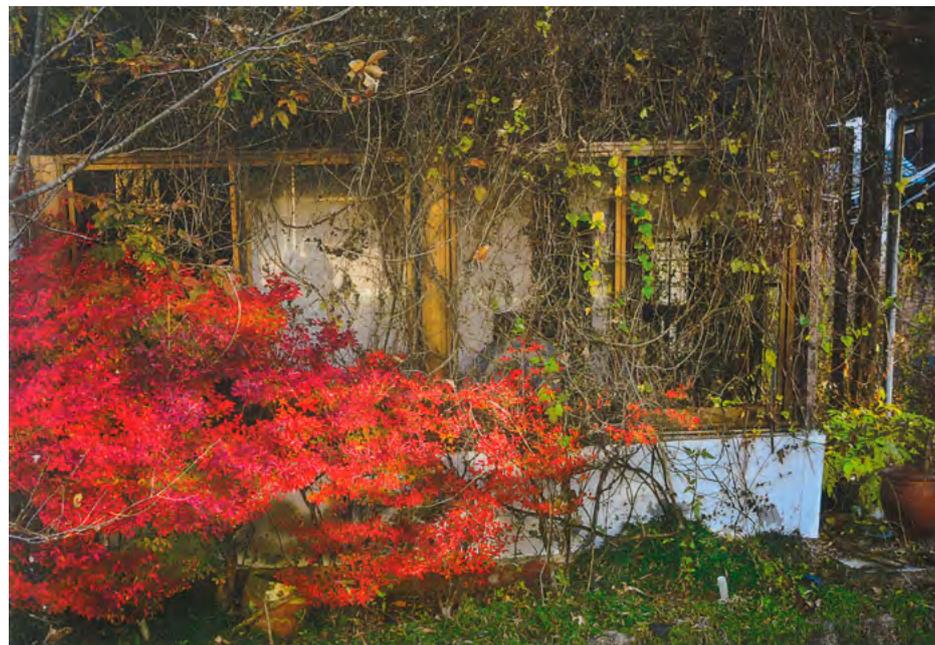
ヒトは歩く 東京松の内2018  
高橋美保



ゆめうつつ 山形最上  
高群美子



安倍元首相の暗殺現場  
宮崎悦子



一時帰宅―帰還困難区域 浪江

藤田篤男



願い 浅草寺境内  
山本やす子



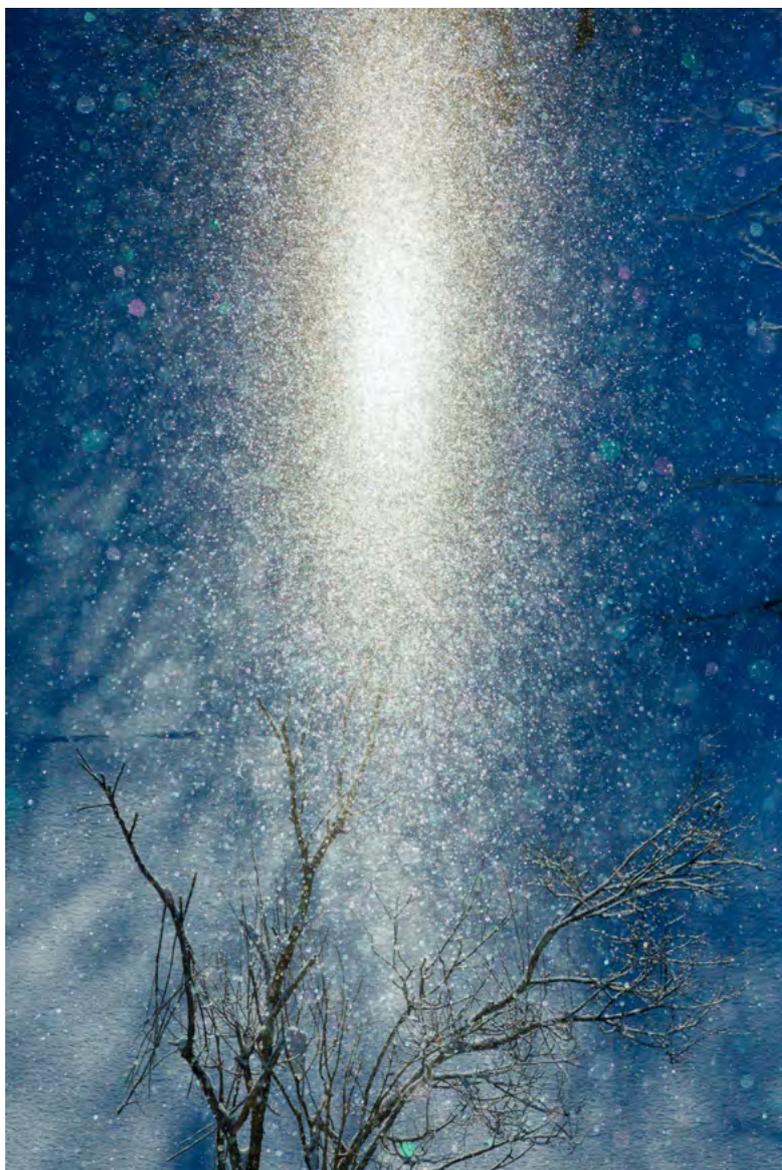
ヤスクニ  
赤塚ほしよ



何事のおはしますをばしらねども  
中西篤行



岐阜県柳ヶ瀬商店街・再開発  
廣田一雄



冴ゆる朝  
佐藤健治



孝行  
大久保金行





父、97歳、食前に嚥下体操をする  
山本暁



統一教会の勧誘に気を付けましょう（2007年10月～11月）

関 雅之



Omikuji おみくじ  
甲田智之



オフィスに向かうサラリーマン  
小林定之



水頭症のカイン  
中村梧郎



「上海放生橋故事」より 霧の朝一放生橋北詰め  
1993年2月 朱家角鎮  
英伸三



「浜」鎌倉景Ⅱより  
尾辻弥寿雄



### 「Vitis- キョウセイするセイタイ」

7月から8月にかけて長野県小諸市にあるギャラリー、Salon de Vertが東京藝大の先端芸術表現科の学生を中心とした若いアーティストたちのために宿泊場所と展示場所(周囲の森)を提供する KomoMoriMore という企画に参加した。

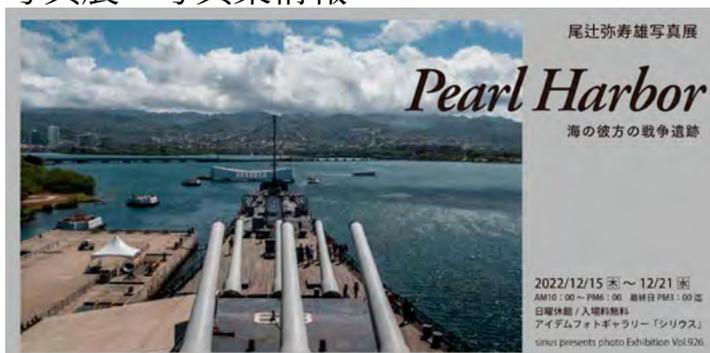
作品制作にあたり小諸市周辺はブドウ栽培が盛んだと知り、ブドウとヒトの共生関係をテーマとして撮影し、サイアナタイプの作品を森に展示することにした。

写真のルーツを学ぶため古典印画法の実験をしているうちに銀塩を使わず鉄を利用して青い像を焼き付けるサイアナタイプ(青写真)という技法に出会い、プルシアンブルーと呼ばれる青の鮮やかさに魅せられた。

## 目次

- 1 / 浅井鐵男 2 / 木崎昭 3 / 豊島洋 4 / 野呂彰 5 / 中澤ふみ子 6 / 飯塚明夫 7 / 五味明憲 8 / 宮本壽男
- 9 / 桜井邦彦 10 / 長尾伸明 11 / 宮原威太郎 12 / 本郷浩 13 / 渡辺壮 14 / 鈴木知之 15 / 宮本遼
- 16 / とみたやすよ 17 / 佐藤泰治 18 / 石田雅章 19 / 高橋美保 20 / 高群美子・宮崎悦子
- 21 / 藤田篤男 22 / 山本やす子・赤塚ほしよ 23 / 中西篤行 24 / 廣田一雄 25 / 佐藤健治・大久保金行
- 26 / 田沼洋一 27 / 山本暁 28 / 関雅之 29 / 甲田智之・小林定之 30 / 英伸三 31 / 中村悟郎 32 / 尾辻弥寿雄

## 写真展・写真集情報



尾辻弥寿雄写真展

「Pearl Harbor 海の彼方の戦争遺跡」

2022/12/15-12/22

アイデムフォトギャラリーシリウスで開催します。  
写真集同時発行

12月4日(日) 14:00-16:30

オンライン公開講座開催予定

詳細は追って、ウェブ・peatix等で配信します。

Coming soon

◇飯塚ゼミ在籍 平川正枝写真集 「華神」

現研出版局より11月3日発行予定

◇尾辻ゼミ在籍 高橋美保写真集 「森の饗宴ー武蔵野・狭山丘陵」

現研出版局より来年1月発行予定

◇◇◇第2回伊藤知己写真賞受賞が発表されました◇◇◇

なかにしみづほ (現研OG) 「デュエット」

丸の内フォトギャラリー (第一会場) 2022/12/2 ~ 12/30

奨励賞受賞作品 : 久保村厚「隣の田圃・水番記」

(アートスペース丸の内) : 三木知子「HIVとともにーミャンマー 三人の女性の生き方」

受賞を記念して写真展が開催されます。ぜひご覧下さい。

